

## バイオ重油でアスファルト合材

# 前田道路が量産へ

道路工事大手の前田道路が、舗装用のアスファルト合材をつくる際の燃料に、再生可能な「バイオ重油」を採用することが分かつ

た。ベンチャー企業の技術を独占的に導入し、今年度から量産する。従来の重油から置き換えることで、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出

を大幅に減らすねらいだ。

アスファルト合材は製造時に160度前後まで加熱する必要があり、燃料に重油を使う。前田道路はこれを植物油の搾りかすや廃棄する牛乳などを原料にしたバイオ重油に切り替える。

ベンチャー企業のバイオ燃料技研工業(広島市)の技術を導入し、子会社が生産する。価格は重油と同じぐらいの水準で、熱量や保管などの扱いやすさも重油と同等だという。

今年度は広島市の合材工場で3300キリットル使う予定。2年後には西日本の34工場で計1万3千キリットルを使う予定で、CO<sub>2</sub>の排出量を年約3万6千ト削減できるという。その後さらに増産し、全国の96工場を使う計画だ。将来的には社外への販売も視野に入れている。(松浦新)